

令和4年度
授業評価結果報告書

群馬県立県民健康科学大学
教務学生委員会

令和4年度 授業評価報告書

1. 授業評価の概要

1. 1 授業評価の趣旨

授業評価の目的は、各教員が授業の内容および方法を改善し、教育の質を向上させることである。本学では平成22年度から、学生による授業評価とそれに基づいた教員の自己評価を組み合わせる形で授業評価を開始し、双方の評価結果を学生と教員が共有することで、この目的達成に取り組んでいる。

1. 2 学生による授業評価

1. 2. 1 調査票について

平成29年度より学修支援システム manaba（以下、manaba とする）を活用した授業評価アンケート調査が開始された。本年度も「講義」「演習」「実習」「実験」の4種類の授業形態毎の調査を継続し実施した。授業評価アンケートは、manaba マイページの最上部に、学生が履修している授業形態別にアンケートのリストが表示され、授業科目名を選択し回答する仕組みである。アンケートの冒頭には、授業評価アンケートの趣旨「教員が学生による授業評価結果を把握し授業改善・向上に活用すること」が示され、個人情報保護の観点を含む倫理的配慮として集計における回答者の個人情報の匿名化が明示され、学生への協力依頼がなされている。

Webシステムによるアンケート導入により質問形式の自由度が拡大したことから、平成30年度より授業評価アンケートの内容は、学生の回答を通して教員が自身の改善点を明確に把握できる質問内容に改訂された。アンケートの大項目は、学生の授業に対する理解度・目標の達成度の確認、理解度・達成度が十分でない場合の理由、授業に対する取り組み姿勢・準備状況、教員側の自己学修の促進、成績評価の明確さ、授業の満足度と良かった点・改善点を問う構成である。回答には原則として5件法を採用した。

令和3年度には、アンケート項目を検討し、令和4年度に一部変更を加えた。この変更は、学生が主体的な学修に取り組むことの重要性が高まっている大学教育の現状を踏まえ、授業評価の質と精度を向上させるために行った。具体的には、質問の項目および順序、分類を見直し、教員と学生の双方がより効果的に授業内容を評価・改善できるよう調整した。これにより、質問の表現がより明確になり、授業形態にかかわらず質問項目を統一した。また、類似する質問項目は統合され、実習では教員を主に評価対象とする選択肢を設定した。さらに、自己学修を行ったかどうかについても、それぞれの授業形態に応じた必要な自己学修時間を確認した上で回答を求めるようにした。これらの変更は、学生の学修態度の改善や学修成果の向上に寄与するものである。

次ページ以降、授業形態別の授業評価アンケート評価項目を表1に示した。

表 1-1 授業評価における評価項目 <講義>

	分類	項目 No.	評価項目
講義	講義に対する取り組み姿勢・準備状況、目標達成度	①	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義を受けましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		②	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		③	単位認定には自己学修時間（講義1単位あたり30時間）が必要です この講義に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか 1. ほとんど行わなかった 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 2時間程度 5. 3時間以上
		④	講義の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか 1. まったく達成できなかった 2. あまり達成できなかった 3. おおむね達成した 4. 十分達成した 5. 非常に高いレベルで達成した
	講義の目標達成度が十分でない場合の理由	⑤	前項④で1-2と回答した方は、十分達成できなかった理由を複数回答で選んでください。 1. 勉強が足りなかった 2. 講義の目的・目標が明確でなかった 3. 話し方が聞き取りにくかった 4. 教材・器具、資料（量・質）が適切でなかった 5. 講義中の課題等に対する指示が明確でなかった 6. 講義の時間配分が適切ではなかった 7. 学生の理解度の確認が十分でなかった 8. 質問・意見が気軽にできなかった 9. レポートや提出物等に対するフィードバックが十分でなかった 10. 学生の自主性が尊重されなかった 11. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった 12. 説明や指導が熱心でなかった 13. 討議等の活動を取り入れなかった 14. 教員間の連絡、指導内容の調整等が十分でなかった 15. 講義に集中できる環境を調整しなかった 16. その他（ ）
		⑥	前項⑤で16を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑦	講義にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		⑧	成績評価の方法と基準は明確でしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	講義内容の満足度、良かった点・改善点	⑨	総合的にみて、この講義に満足できましたか 1. 全く満足できなかった 2. あまり満足できなかった 3. どちらともいえない 4. 満足できた 5. 十分満足できた
		⑩	この講義の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

表 1-2 授業評価における評価項目 <演習>

	分類	項目 No.	評価項目
演習	演習に対する取り組み姿勢・準備状況、目標達成度	①	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で演習を受けましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		②	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		③	単位認定には自己学修時間（演習1単位あたり15時間）が必要です この演習に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか 1. ほとんど行わなかった 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 2時間程度 5. 3時間以上
		④	演習の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか 1. まったく達成できなかった 2. あまり達成できなかった 3. おおむね達成した 4. 十分達成した 5. 非常に高いレベルで達成した
	演習の目標達成度が十分でない場合の理由	⑤	前項④で1-2と回答した方は、十分達成できなかった理由を複数回答で選んでください。 1. 勉強が足りなかった 2. 演習の目的・目標が明確でなかった 3. 話し方が聞き取りにくかった 4. 教材・器具、資料（量・質）が適切でなかった 5. 演習中の課題等に対する指示が明確でなかった 6. 演習の時間配分が適切ではなかった 7. 学生の理解度の確認が十分でなかった 8. 質問・意見が気軽にできなかった 9. レポートや提出物等に対するフィードバックが十分でなかった 10. 学生の自主性が尊重されなかった 11. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった 12. 説明や指導が熱心でなかった 13. 討議等の活動を取り入れなかった 14. 教員間の連絡、指導内容の調整等が十分でなかった 15. 演習に集中できる環境を調整しなかった 16. その他（ ）
		⑥	前項⑤で16を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑦	演習にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		⑧	成績評価の方法と基準は明確でしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	演習内容の満足度、良かった点・改善点	⑨	総合的にみて、この演習に満足できましたか 1. 全く満足できなかった 2. あまり満足できなかった 3. どちらともいえない 4. 満足できた 5. 十分満足できた
		⑩	この演習の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

表 1-3 授業評価における評価項目 <実習>

	分類	新項目 No.	評価項目
実習	実習に対する取り組み姿勢・準備状況、目標達成度	①	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で実習を受けましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		②	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		③	単位認定上の自己学修時間は設けていませんが、授業の性質上、事前・事後学修は必要です。この実習に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか 1. ほとんど行わなかった 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 2時間程度 5. 3時間以上
		④	実習の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか 1. まったく達成できなかった 2. あまり達成できなかった 3. おおむね達成した 4. 十分達成した 5. 非常に高いレベルで達成した
	実習の目標達成度が十分でない場合の理由	⑤	前項④で1-2と回答した方は、十分達成できなかった理由を複数回答で選んでください。 1. 勉強が足りなかった 2. 実習の目的・目標が明確でなかった 3. 話し方が聞き取りにくかった 4. 教材・器具、資料（量・質）が適切でなかった 5. 実習中の課題等に対する指示が明確でなかった 6. 実習の時間配分が適切ではなかった 7. 学生の理解度の確認が十分でなかった 8. 質問・意見が気軽にできなかった 9. レポートや提出物等に対するフィードバックが十分でなかった 10. 学生の自主性が尊重されなかった 11. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった 12. 説明や指導が熱心でなかった 13. 討議等の活動を取り入れなかった 14. 教員間等の連絡、指導内容の調整等が十分でなかった 15. 実習に集中できる環境を調整しなかった 16. その他（ ）
		⑥	前項⑤で16を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑦	実習にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
		⑧	成績評価の方法と基準は明確でしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	実習内容の満足度、良かった点・改善点	⑨	総合的にみて、この実習に満足できましたか 1. 全く満足できなかった 2. あまり満足できなかった 3. どちらともいえない 4. 満足できた 5. 十分満足できた
		⑩	この実習の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

表 1-4 授業評価における評価項目 <実験>

分類	新項目 No.	評価項目
実験に対する取り組み姿勢・準備状況、目標達成度	①	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で実験を受けましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	②	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 4. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	③	単位認定上の自己学修時間は設けていませんが、授業の性質上、事前・事後学修は必要です。この実験に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか 1. ほとんど行わなかった 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 2時間程度 5. 3時間以上
	④	実験の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか 1. まったく達成できなかった 2. あまり達成できなかった 3. おおむね達成した 4. 十分達成した 5. 非常に高いレベルで達成した
実験の目標達成度が十分でない場合の理由	⑤	前項④で1-2と回答した方は、十分達成できなかった理由を複数回答で選んでください。 1. 勉強が足りなかった 2. 実験の目的・目標が明確でなかった 3. 話し方が聞き取りにくかった 4. 教材・器具、資料（量・質）が適切でなかった 5. 実験中の課題等に対する指示が明確でなかった 6. 実験の時間配分が適切ではなかった 7. 学生の理解度の確認が十分でなかった 8. 質問・意見が気軽にできなかった 9. レポートや提出物等に対するフィードバックが十分でなかった 10. 学生の自主性が尊重されなかった 11. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった 12. 説明や指導が熱心でなかった 13. 討議等の活動を取り入れなかった 14. 教員間等の連絡、指導内容の調整等が十分でなかった 15. 実験に集中できる環境を調整しなかった 16. その他（ ）
	⑥	前項⑤で16を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑦	実験にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていましたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
	⑧	成績評価の方法と基準は明確でしたか 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う
実験内容の満足度、良かった点・改善点	⑨	総合的にみて、この実験に満足できましたか 1. 全く満足できなかった 2. あまり満足できなかった 3. どちらともいえない 4. 満足できた 5. 十分満足できた
	⑩	この実験の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

1. 2. 2 授業評価の実施方法

授業評価アンケートは、セメスター終了後の単位認定試験期間を目処に manaba 上で公開され、学生の積極的な回答への協力の依頼を広報した。また、単位認定試験後に実習がある場合等により授業期間が異なる科目については、アンケート公開期間の延長等により対応した。

授業評価は、原則として授業最終日の授業時間を活用し、授業担当教員から学生に対して授業評価の依頼と回答方法を説明し、アンケートを実施した。令和4年度は、前年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会情勢に応じて、対面式授業やオンライン授業を実施するとともに、臨地実習については学内代替実習や実習期間の変更等を行った。授業方法の変更を余儀なくされながらも、アンケート回答率の向上を目指し、授業評価の依頼や回答方法の説明に加えて、manaba ニュースコースを活用し授業評価の協力依頼のアナウンスの強化、最終回の授業時間内における回答時間の設定等、依頼方法や実施方法を工夫した。

授業評価アンケートは、個人が特定されないシステムを採用しており学生に不利益が及ぶことはない。また、アンケートの回答は学生の自由意思によるものとして保障されている。なお、manaba による調査結果の集計は事務局が担当し、教員は関与していない。

1. 3 教員による授業評価報告書

教員による授業評価報告書は、学生による授業評価の集計結果及び自由記述内容を受けて、下記の3項目に沿って作成する。

- 1) 学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想
- 2) 実施した授業方法・工夫に対する評価
- 3) 授業に対する総合的評価と改善点

1. 4 授業評価結果の集計方法

学生による授業評価結果及び教員から提出された授業評価報告書は、科目区分別に、「教養教育科目」、「看護学部 専門基礎科目・専門科目」、「診療放射線学部 専門基礎科目・専門科目」に区分して集計した。なお、本年度は専門教育科目の合同科目については、各学部の区分に含め集計した。また、調査用紙は授業形態別に「講義」、「演習」、「実習」「実験」毎に作成されているため、それぞれ区分別に集計した。

2. 学生による授業評価の実施状況

2. 1 授業評価の実施科目数と学生の回答率

本年度に開講した科目の授業評価に関する実施状況及び学生による回答率をそれぞれ表2及び表3に示した。本年度も manaba システムにて調査を実施した。開講されたすべての科目で授業評価アンケートを設定した結果、実施率98%であった。

学生の授業評価への回答率を科目区分別にみると、診療放射線学部の専門基礎・専門科目が最も高く69.8%であった。さらに、授業形態別では講義が最も高く64.4%、実習が最も低く

39.7%であった。manaba を活用したアンケートは6年目となるが、全体的な平均回答率については平成30年度以降41.3%、44.5%、46.7%、53.8%、58.0%と改善傾向にあり、前年度と比較し約4%上昇した。

表2 令和4年度 学生による授業評価の実施科目数

科目区分	教養教育科目		看護学部 専門基礎・専門科目		診療放射線学部 専門基礎・専門科目		合計	
	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象
講義	20	20	28	28	37	37	85	85
演習	24	25	23	24	14	15	61	64
実習			17	17	5	6	22	23
実験					7	7	7	7
合計	44	45	68	69	63	65	175	179
実施率	98%		99%		97%		98%	

表3 令和4年度 学生による授業評価の回答率(%)

科目区分	教養教育科目			看護学部 専門基礎・専門科目			診療放射線学部 専門基礎・専門科目			平均回答率
	回答数	履修者数	回答率	回答数	履修者数	回答率	回答数	履修者数	回答率	
講義	800	1167	68.6%	1007	1896	53.1%	1010	1308	77.2%	64.4%
演習	411	610	67.4%	987	1946	50.7%	300	419	71.6%	57.1%
実習				567	1335	42.5%	52	224	23.2%	39.7%
実験							180	259	69.5%	69.5%
合計(平均)	1211	1777	68.1%	2561	5177	49.5%	1542	2210	69.8%	58.0%

2. 2 学生による授業評価の得点状況

集計可能な授業評価項目は、以下の項目である。

Q1 シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義を受けましたか。

Q2 わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか。

Q3 単位認定には自己学修時間(〇〇1単位あたり〇〇時間)が必要です。この講義に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか。

Q4 講義の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。

Q7 講義にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされて
いましたか。

Q8 成績評価の方法と基準は明確でしたか。

Q9 総合的にみて、この講義に満足できましたか。

各授業評価項目について、科目区分別及び授業形態別に学生の回答から平均得点値（以下、平均値）を求め図1～図3に示した。科目区分別に見た場合、教養教育科目、看護学部及び診療放射線学部の専門基礎科目・専門科目の評価項目の平均値は、いずれも項目3（自己学修時間）を除いて、ほぼ4点前後を示した。平均値が最も高かった項目は、診療放射線学部の実習の項目7「講義にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていきましたか。」であり、平均値は4.60であった。この項目7を授業形態別にみると、次点は診療放射線学部の実験の4.56、演習及び実習で看護学部の4.28であった。教育教養科目では講義・演習のそれぞれで4.04、4.25と実習と比較して低い傾向であった。

また、項目9の「総合的にみて、この講義に満足できましたか。」における専門基礎・専門科目の授業形態すべての平均値は、診療放射線学部4.39、看護学部4.33と両学部ともに高く、高い満足度を示した。教養教育科目の講義・演習における平均値も4.32であり満足度は高かったと言える。過去3年間の推移を見ても大きな変化はなく高い満足度を示した。

一方で、項目3「講義・演習・実習・実験に対して、週平均どのくらいの自己学修を行いましたか。」に対する平均値は、看護学部および診療放射線学部の3.0であった。教養教育科目の平均値はそれぞれ2.7であった。

自己学修の全授業科目の平均値は3.0（30分から1時間程度）であり、昨年度の2.8より向上した。授業形態別では診療放射線学部の実験の平均値が4.6（2時間程度～3時間以上）と最も高く、続いて、看護学部と診療放射線学部の実習の平均値がそれぞれ3.8、3.7（2時間程度）で高く、講義・演習を上回っていた。講義・演習・実習の平均値はそれぞれ3.6、3.8、3.7であった。

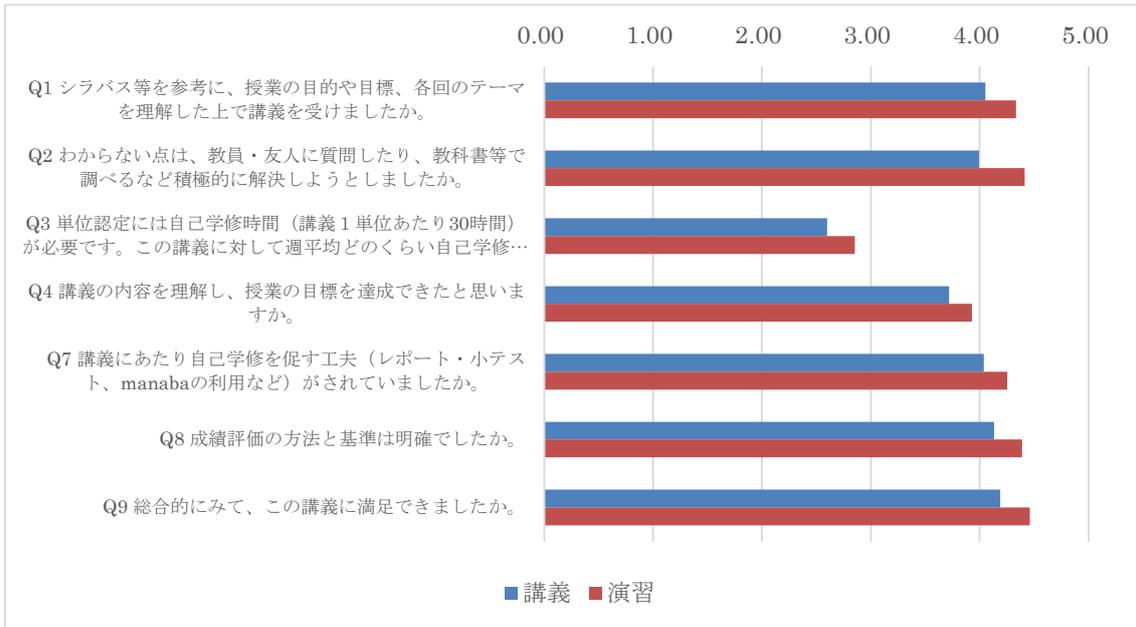


図1 令和4年度 教養教育科目の学生による授業評価得点
(回答数：講義 712、演習 471)

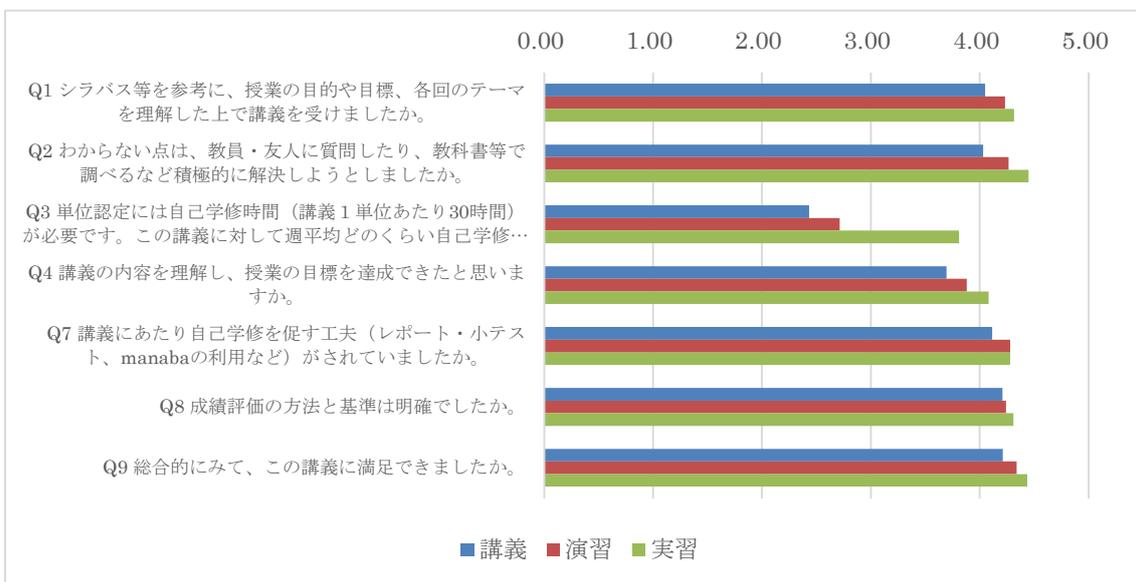


図2 令和4年度 看護学部 専門基礎科目・専門科目の学生による授業評価得点
(回答数：講義 1241、演習 647、実習 294)

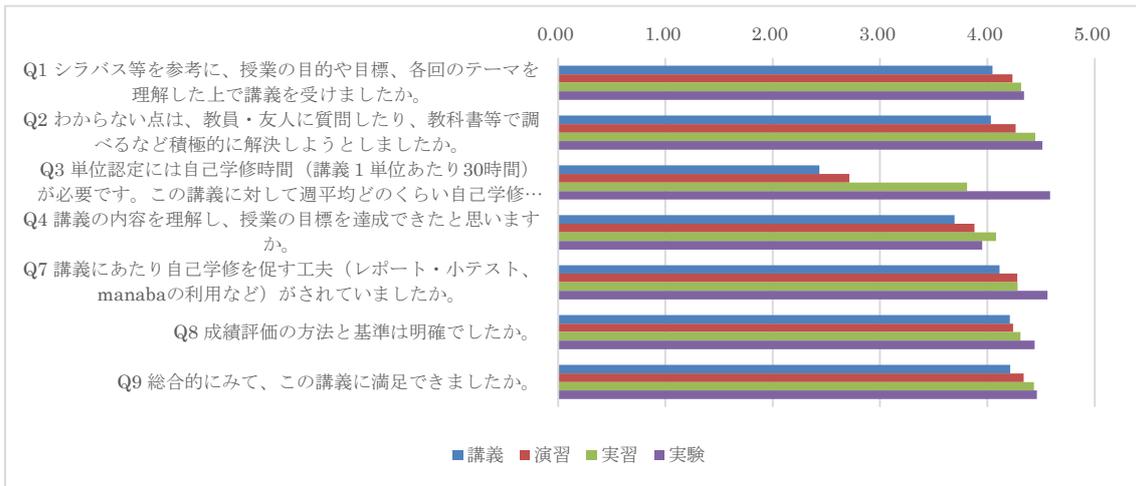


図3 令和4年度 診療放射線学部 専門基礎科目・専門科目の学生による授業評価得点
(回答数：講義 1165、演習 272、実習 132、実験 115)

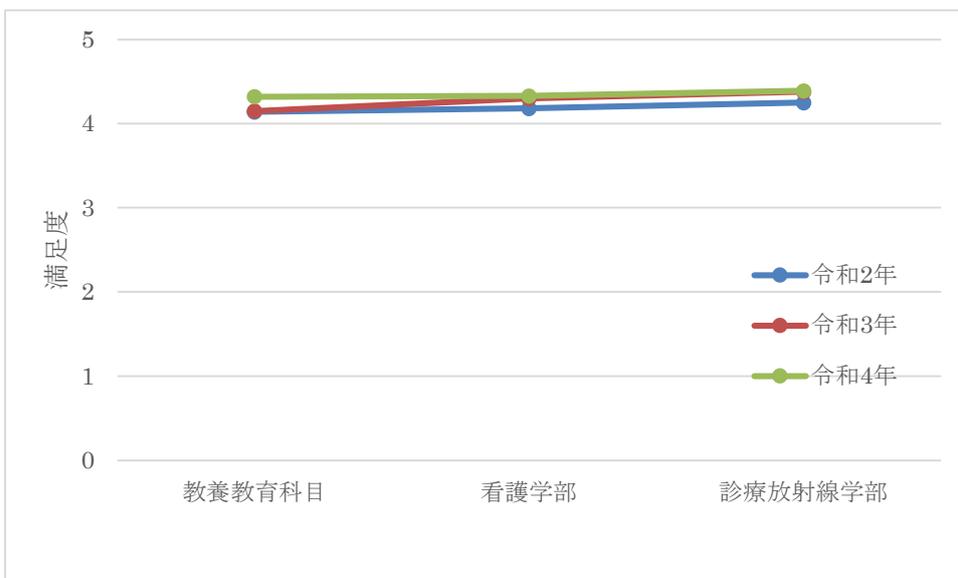


図4 過去3年の満足度の推移

表4 令和4年度 自己学修時間に関する評価得点の平均値

	教養教育科目	看護学部 専門基礎・専門科目	診療放射線学部 専門基礎・専門科目	平均
講義	2.6	2.4	2.6	2.6
演習	2.9	2.7	2.8	2.8
実習		3.8	3.6	3.7
実験			4.6	4.6
平均	2.7	3.0	3.4	3.4

2. 3 自由記述内容

学生による授業評価は、記載した個人が特定されないよう匿名性が確保されている。従って、アンケートには、授業に関する学生の率直な意見・感想が記述されており、自由記述の多くは学生主体の授業への興味・関心からの感想が多くを占めているが、授業改善を視点にした授業評価とは無関係な内容も散見された。しかし、本アンケートは授業を担当した教員にとって、学生の視点を通して自己の授業を振り返り、授業の改善・向上に資するための貴重な資料である。よって、本授業評価の自由記述の集計・整理作業においては、授業評価とは無関係とも考えられる記述内容においても学生のありのままの評価として取り扱った。記述内容は類似した内容を項目に分類し、主要な内容を以下に示した。

(1) 学修意欲や理解度の高まりを予期させるもの

- 難しい内容だったが先生が少しずつ丁寧に解説してくれたため理解しやすかった。
- 最後の授業では看護の資格を取得した後の人生設計について学べて、大変参考になりました。
- 今後の学生生活に役立てられるであろう様々なスキルを学ぶことができた点が良かったです。
- さまざまな演習が毎回あったり、実習もあって、実際に体験などすることで、より学習が身についたと思いました。
- 演習を通すことで、学びの振り返りや準備した計画案の修正点を見つけることができたので良かった。
- 看護過程の演習は関連図までは自分で行き、看護計画はグループで立案することで全ての人がアセスメントや関連図の書き方を体験することが出来て良かったとおもいます。
- 事前課題や事後課題などが課されていたため、自主学習として取り組むことができました。
- EBPを通して、実習で感じていた疑問点がわかったり、先生ととことん調べたり考えたりする時間が多くて、今後活用できると感じられる研究ができました。
- 診療放射線学ということで、これまでどうしてもぼんやりしていた放射線技師としての仕事内容や、気をつけるべきことなどを授業を通して学び、今後自分がどういった仕事をどんなことを考えながらすべきかのイメージが少しまとまったように感じる。
- 放射線や放射線検査について、とても分かりやすく教えて頂き、診療放射線技師という職業についての興味が高まりました。
- 実際にMRIに触れることが出来て良かったです。
- 感染症や精神疾患などへの対応を事例を用いて学習できたので理解が深まった。
- グループワークや演習があり、実際に学んだことを活かしながら取り組めた。
- 毎週のBWC Quizのおかげで半強制的に復習をすることができてよかった。

(2) 学生が興味を示した教材や手法

- 様々な方の国際的な取り組みを聞いたので、海外での活動のイメージができ、興味が持てた点が良かったです。
- 病院の実際の現場について学ぶことができ、非常に興味深かった。
- 自分自身に関係のある研究成果を用いた授業であったのでとても参考になったことが良かった。
- 講義の動画をあげていただいて、復習がやりやすかったです。
- 穴埋め式の資料なので重要部分がわかりやすかった。
- 図を用いて説明していたので分かりやすかったです。
- 反転授業を行うことで自身が取り組んだ内容はもちろん、グループメンバーが調べた内容についても普段の講義より印象に残りやすくなった。
- 自己学習をしてからグループワークの授業が良かった。
- 具体的な例を用いて教えてくれたり、演習を通して理解を深めることができたので良かったです。高頻度で行われたレポートについて、教科書、ノート、インターネットを駆使して解く過程が案外楽しかったためよかったです。
- 実際に現地に行った人などから国際的な医療について知ることができてよかったです。
- 講師を招いて実体験を聞いたのがよかったです。世界について知ることによって視野が広がった。
- 外国人についての身近な問題から全国的な問題まで学修し理解が深まった。
- ゲストスピーカーさんの話を聞く回があり、実際の現場の声を聞くことができよかったです。
- 自分自身に関係のある研究成果を用いた授業であったのでとても参考になったことが良かった。
- 実際にMRI を使えてよかったです。
- 講義内外の課題や小テストを通して、理解を深めやすかったです。
- DVD の視聴の時間もあって、実際に起こっている問題として捉えやすくなりました。
- 講義の動画をあげていただいて、復習がやりやすかったです。
- 毎回の話し合いのペアが2年生の先輩で、そのペアの先輩は隣の席の先輩と仲が良くてずっと話していたため、わたしは全然ペアワークができなかったです。
- 実際超音波機器に触れる機会や、映像を見た学習があったのでよかったです。
- 反転授業を行うことで自身が取り組んだ内容はもちろん、グループメンバーが調べた内容についても普段の講義より印象に残りやすくなった。
- 毎回する発音練習で繰り返し復讐できたのが、覚えやすくて良かったです。
- 文章を書くのも、単語の意味や使い方を確認できて良かったです。
- ユーモアのあるお話が面白かった。真面目に授業をするだけでなく内容に関連した話などもあって分かりやすく、とても楽しい授業だった。
- グループでディスカッションすることにより、自分では気づけなかったこと気がつける点

(3) 教員の努力を要求するもの

【授業展開】

- スライドの字が小さめで、プリントの()に入れる文字が見えづらかったので、文字を大きくするか、色を変える等の工夫をして欲しいと感じた。
- 速くて聞き取れないことがたまにありました。
- スライドの内容を、手書きで写し取るという内容でしたが、すぐに次のスライドに切り替わってしまうため、頑張っではやく書いても追いつけませんでした。講義が分かりにくかったのと、黒板の字が読み取りづらかったです。
- 生徒が分かっている前提で授業を進めるのではなく、もっと深く丁寧に分かりやすく講義をして欲しかった。
- 授業内容の進行が早く、ついていくのに必死だった。内容を詰め込むのもいいが、もう少し、分かりやすさを求める。
- 初回の授業は、教科書もないのにスピードが早すぎた。初回の時授業に対する説明が無かった。レポートの答えが示されなかった。授業時間を使えないのなら、manaba で模範解答を配信してほしかった。
- マイクを回してたくさんの方の意見が聞けたのはよかったが、近くで回すと少々相談し、意見が被るので4人1組のブロックごとくらいにどンドン回すのがいいのかと思う。
- 演習の事前学習期間がもう少しあるとやりやすかったと思いました。
- 講義中に演習問題の解説をもっとしてほしかった。
- 学生に考えさせる時間をとってくれたことは良かったけれど、答える時に学生の声が聞こえなくて分かりにくいところがありました。
- 模擬演習までの計画時間が短く感じたため、もう少し時間をとっていただけるとありがたいと感じました。
- カンファレンスのテーマの表現わかりにくく、違う捉え方をしてしまったので、わかりやすく書いたり説明したりしてほしい。
- グループで話し合う前に、発表資料の書き方などについてもう少し具体的に説明してほしい。
- テーマの捉え方についてそれぞれのグループで異なっていたので、テーマの解釈を一致できるような説明がほしかったです。
- 班によって態度が違っていただけのように感じた。

【教材】

- マナバの小テストがあると良いと感じた。
- 配布資料の字が小さく、読みにくいと感じた。講義展開がスムーズに理解できるような順序で説明されていないように思えた。
- レジュメは図が多く、説明が少ないと感じました。

- スライドが見づらかった。小さくて見えなかったり、明るくて見えなかったりした。
- 教科書のオスラーのところは特に、日本語でも何が言いたいのかわかりにくかったので、意味のわかる教科書の方がいいと思う。
- パワーポイントの字が小さく詰めこまれているので読みにくかった。
- ページが変わるのが早かったため書ききれないところが多くありました。
- 解析シートなど配布資料の有無が班によって違ったので、統一していただけると嬉しいと感じました。

【教員の姿勢・態度】

- 先生の熱意は痛いほど伝わってきたのですが、寝ずに学習している人からしたら、寝ている人個人に注意してこちらを巻き込まないで頂きたいと思いました。
- 教員によってまた教員と指導者で指示内容が少し異なっていて戸惑う場面があったため統一して欲しい。
- 現場の話聞くことができたためよかった。テストの出題例だけでも模範解答が欲しいと感じた。
- 演習の時の声掛けが難しかったです。手順などは manaba の動画で確認できました。どのように声掛けをしているのか参考にしたいので、音声も入れて欲しいです。
- 先生の話し方的に眠くなりやすかった。もう少し抑揚をつけて話してほしい。
- 声が少し聞き取りにくかった。
- 教員の話が長すぎるかなと感じるときが多々あった。
- 教員によってまた教員と指導者で指示内容が少し異なっていて戸惑う場面があったため統一して欲しい。
- 学生の質問や疑問に対して非常に詳細に教えて下さることはありがたいのですが、学生と教授とで態度があまりにも異なることについて気になりました。上司の先生方ももちろん評価者ですが、学生も評価者です。また事務の方々が学生に対して授業評価アンケートという形で評価の場を設けています。その自覚をもっていただきたいです。

【成績評価】

- 先生の個人的な意見や主張が強く反映された回答がなされることがあり、不快に思うことがあった。先生の意見と課題に対するコメントは分けてほしかった。
- その日のうちに記述テストを実施されるのが少し辛かったです。
- 成績がどのようにつくのか分かりづらい。
- テストが少し難しかったです。
- 疾患の説明をもっとしてほしい。
- レポートの課題が難しかった。特に関連図が難しかったため、コツなどを最初に教えて欲しい。

- 実技テストの評価について、心当たりのないことが指摘されていたので、すこし疑問に思った。
- 1日の学びを手書きが大変でした(情報収集のみの日とはでは絞り出して辛かったです)書き直しの作業時に手書きだと、加筆(くの字2重線負荷のため)が負担でした。
- 最後の記録物提出の際に事前学習を求める教員と求めない教員がいらっしまったようなので統一するべきだと思った。
- 最後の週の学内実習において、事前学習の時間が少し長く、最後の日誌を書く時間を作ることなどで、効率的に時間を使えると思いました。

(4) その他

【授業環境・要望】

- 実際に生まれてからずっと群馬に住んでいるけど知らないことがたくさんあり、それを知ることができてよかったです。群馬県民でも知らないことを他県の人と学修することで群馬の特徴がより伝わるのではと考えた。
- 様々な分野の講師の講義を受けることができた点。
- 講義資料が十分用意されていたため、内容を理解しやすかった
- 毎回の講義が終わったあとにmanabaでのレスポンスカードがあったことで自己の考えをまとめるよい機会になったと共に講義を振り返ることが出来たのでよかったです。
- 授業の中でただ講義を聞くだけでなく、学生が参加しやすいようにペアワークがあったり体を実際に動かしてみたりといった工夫がされていたのも良かったと感じました。テストをする日の告知が不十分だと感じた。
- 選択する領域によって課題の重さが違うのはどうなのかと思った。
- グループによって忙しさに差があったところが改善できるといいと感じた。
- 受けもちがないときの対応も考えてほしい。
- 何を勉強したいか伝えて先生に頼んでくださいと言われても何を頼んでよいのかわからない。
- 雪の降った日に予定変更が無かったために帰るのが不安な学生や帰れない学生もいた。オンラインにするなど何か対策を打った方がいいと思った。
- 教員ごとに課題や記録に関する説明が違い混乱するため、統一してほしい。
- 担当教員の話が長かった。
- 実習カンファレンスのテーマが抽象的で難しい。誘導も少しわかりにくくて迷った。説明がほしい。

3. 教員による授業評価報告書

3. 1 教員による授業評価報告書の提出科目数

教員による授業評価の対象となった科目数と評価報告書提出科目数を表5に示した。教員による授業評価報告書の提出率は97%（平成30年度は93.6%、令和1年度92.2%、令和2年度97%、令和3年度97%）で昨年度と同様であった。科目区分別でみると看護学部の専門基礎科目・専門科目の提出率が最も高く100%であった。

表5 令和4年度 教員による授業評価報告書の提出状況

c 科目区分	教養教育科目		看護学部 専門基礎・専門科目		診療放射線学部 専門基礎・専門科目		合計	
	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象
講義	18	20	28	28	34	37	80	85
演習	24	25	24	24	15	15	63	64
実習			17	17	6	6	23	23
実験					7	7	7	7
合計	42	45	69	69	62	65	173	179
実施率	93%		100%		95%		97%	

3. 2 学生の授業評価に対する担当教員による授業評価報告書の記述内容

報告書の内容は、「学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想」、「実施した授業方法・工夫に対する評価」、「授業に対する総合的評価と改善点」の3つの視点に基づく記述である。主要な内容の一部を以下に示した。

(1) 学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想

- コロナの影響もあり、音楽を聴くことの大切さを切実に感じているようでした
- 授業評価は全体として期待通りであった。多くの点で改善が見られ、講義の工夫が奏功したと見られる。
- 本講義の狙いとして、放射線関連の学問的背景に触れる機会がない看護学部の学生に、放射線関連の用語や事柄をキーワード的に知ってもらい、将来、医療施設などで関わる時に自分で勉強や調査したりするきっかけになればということがあり、アンケートから確認することができた。
- 第14回・第15回の授業時間内に回答を求めて一定の時間を確保したほか、manabaで複数回にわたり協力依頼を行ったが回収率アップにつながらなかった。
- 講義に対する自己学修は、1時間から3時間が58%で30分以下が42%であった。昨年度と比べると自発性が低い。
- manabaを活用したレポートの回収・評点が、自己学修の動機になった。

(2) 実施した授業方法・工夫に対する評価

- 本年は、講義の要旨をまとめて印刷したペーパーを講義ごとに学生に配り、板書を最小限にした。
- 出席カードや授業への意見を manaba で提出する方式にしていることで、授業を振り返る機会を作っている。昨年は提出期限が短いとの不満の意見が複数寄せられたため今年度は時間を多くとった。この点については改善できたと考える。
- ビデオや写真等を用いて、理解しやすいように工夫した。講義の感想表などの内容をフィードバックするなどを行った。
- manaba でミニテストを行い、復習・自己学修を促すようにした。これについては、成績評価には直接関係しないが、活用している学生が多かったと思う。
- 事前学修課題は授業資料の一部として活用することを想定し、事後学習課題は manaba から国試形式のテストを実施した。
- 課題図書の精読と学んだ内容のレポート課題（課題図書を 10 冊推薦し興味関心に基づき自由に選書）とループリックを提示し、学修習慣を身につけられるようにした。
- 反転授業では、感染予防策を講じながら、個人学修課題（調べ学習＋レポート作成）とグループ発表（調べ学習をグループメンバーに発表し意見交換を行う）を併用した。
- 講義を録画してオンデマンドで復習用教材として配信した。
- 中間評価・最終試験には選択式問題だけでなく記述問題も含むことで、相手に伝わる文章を書くことの重要性が認識できるようにした。
- COVID-19 の影響を考慮してハイブリッド講義（対面と希望者のみ Teams によるライブ配信）を実施した。
- 各自の担当論文を PPT スライドにまとめ 8 分間/人で全員に紹介し質疑応答した。これはスライド作成とプレゼンの演習となった。

(3) 授業に対する総合的評価と改善点

- 総合的に見て、講義の内容を理解し、授業の目標を達成できたという学生と、講義に満足できたという学生が多かったので概ね目標は達成されたと思われる。
- 調査に協力した学生においては、この科目の目標をおおむね達成できたと評価していたと考える。回収率が低く、学生全体の意見を反映しているとはいえない。今後さらに学生が協力しやすい体制を整えるとともに、学生からのフィードバックの重要性を学生へも説明していく必要がある。
- 授業形態としては、一方通行の講義になりがちだったと思うので、今後は学生個々の発言を促すなど、学生の授業参加につとめていきたい。
- リアクションカードをさらに活用していきたい。
- グループワークの時間をもう少し増やせるとよいと思う。
- 学生が自分で考え、本を読み、質問によって深めていくような学修ができるとよりよいと思う。今後も自己学修を促すような工夫・改善をしていきたい。
- 毎回の授業に課している小テスト・ワークシート・調べ学修レポートなどの未提出により得点率が低く、課題評価が 60% に満たない者も確認しているため、個別のレディネスにも目を向けながら自律性を促進することが課題となる。

- manaba を活用した質問は、例年よりも活発であった。今後も、対面・オンラインを有効活用しながら、毎回の授業で生じる学生の疑問や興味・関心を大切に進めていきたい
- 学生が高齢者をイメージしながら学修を深められるよう、最新の統計や資料、視聴覚教材の活用を検討していきたい。
- 次年度はレジュメを充実させるとともに、講義時の説明をわかりやすくするように心がけたい。
- 自己学修を促すためにも、講義の理解を確認する定期的な小テストを導入することが有効である。

4. 授業評価の分析

4. 1 学生による授業評価

4. 1. 1 授業評価の実施率と学生による回答率にみられる特徴

令和4年度における授業評価の実施状況は、manabaなどのシステムを活用し、学生からのフィードバックを収集する取り組みがさらに進化した一年であった。事務局による一括した公開設定の下で、授業評価はほぼ全科目で実施され、その実施率は前年度の100%を維持し、学生による回答率においても顕著な改善が見られた。

具体的には、教養教育科目、看護学部、診療放射線学部を含む全体で、授業評価の実施科目数は合計179科目中175科目となり、実施率は前年に引き続き高い水準を保ち続けている。特に、講義、演習、実習、実験の各カテゴリーにおいても、実施率はほぼ100%に近い数値を示している。

一方、学生による授業評価の回答率は全体で58.0%となり、令和3年度の53.8%から4.2ポイントの増加を見せた。この改善は、教員と学生間のコミュニケーション強化、オンライン授業の調整、リマインドメールの効果的利用など、多方面からのアプローチが功を奏したと考えられる。特に、講義では回答率が平均64.4%に達し、演習、実習、実験のカテゴリーにおいても、それぞれ異なる挑戦を通じて回答率の向上が図られた。

これらの成果は、学生による授業評価の重要性の認識の向上、および教員の授業改善への意欲の高まりを示している。教員と学生の双方が、授業評価システムの有効活用に向けた意識を一層高めている結果、授業評価の実施率と回答率は共に向上し、教育の質の向上に寄与している。

令和5年度に向けては、引き続き、授業評価の回答率のさらなる向上を目指し、そのための具体的な施策を継続的に推進していく必要がある。学生と教員の双方が授業評価のプロセスに積極的に関与し、その成果を教育の質の向上に生かしていくことが、今後の大学教育における重要な課題の一つである。

4. 1. 2 授業評価の得点について

令和4年度の授業評価得点に関する報告では、授業の各種評価に関するデータが示され、学生の授業に対する満足度や学修活動に関する詳細が明らかにされた。図1から図4に基づくと、多くの授業形態と科目区分において、学生の満足度は概して高く、授業の内容や教授法が学生のニーズを満たしていることが示された。

特に、自己学修を促す工夫が施された講義の評価得点は、平均で講義が2.6、演習が2.9、実習が3.8、実験が4.6という結果になった。これらの数値から、実習や実験に関連する授業では、学生がより積極的に学修活動に取り組んでいることが伺える。実習と実験では、学生が授業の目的や目標に沿って自主的に学習し、目標達成を目指す姿勢が評価されたことが明確になった。

満足度の推移を見ると、過去3年間で教養教育科目、看護学部、診療放射線学部の全てにおいて満足度が徐々に向上していることが確認できる。これは、授業の質の向上や学生サポートの強化が功を奏している可能性がある。

しかし、自己学修時間に関する評価は、特に教養教育科目での平均値が低く、学生の自己学修に対する取り組みが十分でないことを示唆している。これに対し、診療放射線学部の実習と実験関連の授業では、相対的に高い自己学修時間の評価が見られ、学生が学習に積極的に取り組んでいることを反映している。

全体として、令和4年度の授業評価得点は、多くの科目区分や授業形態において学生の期待を満たすレベルにあることを示しているが、自己学修時間の確保とその質の向上には更なる注意が必要である。今後は、特に自己学修時間が少ない科目や年次に対して、積極的な学習機会の提供や学修への意識改革を図ることが重要となる。

4. 1. 3 学生の自由記述について

令和4年度の項目⑫「学生の自由記述について」では、学生たちは「この講義（または演習、実習、実験）の良かった点、改善点について、具体的に記入してください。」という質問に答え、学生の視点からの具体的な意見や感想を提供した。多くの学生が授業の具体的な改善点や、教材の利用方法、教員の教授法について積極的に意見を述べた。その中で、特に注目されたのは、学修意欲や理解度の向上を促す授業方法や、学生の興味を引き出す教材の使用であった。例えば、「演習を通して学習の振り返りができ、事前・事後課題を通じて自主学習を促進できた」「EBP（エビデンスに基づいた実践）を通して実習での疑問点を解消できた」「具体的な例や演習を通じて理解を深めることができた」といった肯定的なフィードバックが多数見られた。また、教員の工夫と努力に対する評価も高く、生徒が分かりやすく、具体的な学習ができるよう配慮された教材の選定や、授業展開の工夫が認められた。しかし、一方で学生からは教材の視認性や授業展開の速さ、教員の姿勢や態度に関する改善要望も挙がっており、スライドの見えにくさ、講義の進行速度、授業中の学生への声かけなど具体的な改善点が指摘された。

令和4年度は、授業方法や教材選定における教員の創意工夫が光る一方で、学生のニーズに応えるためのさらなる改善が求められる年度であった。学生の自由記述からは、教材の可視性

の向上、授業のペース調整、より丁寧な説明を求める声が多く寄せられた。また、教員と学生間のコミュニケーションの改善、授業内での相互作用の促進などが学修環境の向上に寄与することが示唆されている。教員としては、教員の授業展開に関する工夫、例えば、スライドの視認性を高めるためのフォントサイズの調整や、授業の進行速度を学生の理解度に合わせて調整するなど、学生の学習体験を向上させるための具体的な改善策が求められる。さらに、学生からの質問に対する教員の反応や、授業内での相互作用を促進するための取り組みも重要であり、これらのアプローチによって学生と教員の間でより密接なコミュニケーションが生まれることが期待される。また、教材に関する学生のフィードバックを反映させ、より理解しやすい、関心を引く内容への改善が望まれる。これには、反転授業の活用や、インタラクティブな演習の実施などが挙げられる。これらの方法を通じて、学生が主体的に学習に取り組み、深い理解を得ることができるよう支援することが重要である。

4. 2 教員による授業評価報告書について

教員による授業評価報告書は、学生からのフィードバックを基に、教育の質の向上と学修効果の最大化を目指し、授業の改善に役立てるための重要なツールである。令和4年度の授業評価報告書は、教員による客観的な自己評価の機会を提供し、学生の授業に対する理解度、授業の目標達成状況、授業への取り組み、自己学修への動機付け、および授業に対する満足度を、学生の視点から分析することができる。

表5によると、教員による授業評価報告書の提出率は97%と、前年度と同様の高い水準を維持しており、特に看護学部専門基礎科目及び専門科目では100%の提出率が達成された。この結果は、教員が授業の質を維持し、向上させるための努力を継続していることを示している。

授業評価報告書の内容では、学生の授業評価を踏まえた教員の感想や工夫された授業方法の評価、総合的な授業評価と改善点に関する記述が含まれている。音楽の重要性、授業の自発性、授業への満足度など、学生の学修体験を豊かにするための多様な試みが評価されている。また、COVID-19の影響を考慮し、ハイブリッド講義やオンデマンドでの講義復習、個別の学修課題など、柔軟かつ革新的な授業展開が行われたことが確認される。

改善点として、授業の参加促進、リアクションカードの活用、グループワークの時間の増加、自己学修の促進など、学生の学修環境をさらに充実させるための提案が多数記載されている。また、学生の学修動機を高め、授業内容の理解を深めるために、定期的な小テストの導入や最新の統計や資料の活用が検討されている。

これらの努力は、教育の質をさらに高め、学生にとってより良い学修環境を提供するためのものである。令和4年度の教員による授業評価報告書から得られた知見は、今後の授業改善に向けた貴重な資料であり、教員と学生の両方にとって有益なものである。教員の創意工夫と学生の積極的な参加により、より効果的で満足度の高い授業が実現されることを期待する。

5. 令和4年度におけるFD部会・委員会の活動について

FD関連の組織は、学部では教務学生委員会の下部組織としてFD部会が設置され、大学院では研究科専門委員会の一つとして研究科FD委員会が位置づけられている。

授業評価は、学部の授業科目ごとに実施され、FD部会長がとりまとめ、評価の実施と教員による授業評価報告書の作成依頼、FD教員研修会の企画・実施を行った。また、学生による授業評価及び教員による授業評価報告書の依頼は、本学の「群馬県立県民健康科学大学における授業評価実施要領」に基づいて実施され、FD部会では、この要領に基づいたアンケートの実施と集計・分析・報告書の作成を担当している。

本年度は授業評価調査を開始後13年目となった。平成29年度よりmanabaを用いた調査を導入し、平成30年度及び令和4年度にはアンケート内容の一部が変更された。授業の改善点は学生の自由記載内容により明確化され、教員の実効性のある授業改善に役立てられている。アンケート内容の変更が授業改善に反映される効果をもたらすかどうかは、今後も継続してデータを蓄積し、その推移を分析・評価することが必要である。また、質の高い教育内容を提供するためには、アンケートの回答率を高め、整合性のある評価を得て、授業改善に反映する努力も必要である。

学生による授業評価と教員の授業評価報告書双方において、manabaやTeams等のICTを活用した教授方法や教材活用が学生の事前・事後学修へ取り組む意欲を喚起し、授業内容の理解促進に効果的であることが確認された。次年度以降も、引き続きmanabaやTeams等のICTを有効活用し、学修効果の向上にむけた創意工夫のある授業展開が必要である。

大学教育の目的は、教育・研究を通してディプロマ・ポリシーを満たす学生を育成することである。組織的な教学マネジメントの実践においては、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを基盤とした学修目標の具体化や、学修成果・教育成果の把握・可視化、FD研修会の実施等により教育課程の質保証を行っている。各科目の成績評価は平成30年度から成績評価ガイドラインが施行され、令和元年度より正式に運用が開始された。GPAで数値化された成績評価結果は、成績評価の信頼性と学修成果把握の客観性向上を目的に、教員も分析対象とし年度毎に成績評価分布がフィードバックされ利用されている。

以上のように、授業評価結果に基づく授業改善・向上のみならず、学修成果の把握・可視化、適正な成績評価等を組み合わせた検討を継続することにより、本学の教育・研究の質向上にむけた課題の明確化と改善への取り組みが必要である。

6. まとめ

令和4年度を通じて、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを基盤とした学修目標のさらなる具体化と、学修成果・教育成果の把握・可視化に重点を置いた活動を展開した。特に、FD研修会の積極的な実施や、教育課程の質保証に向けた取り組みが、学生及び教員の成長と発展に寄与した。

授業評価の分析においては、令和4年度における学生による授業評価の実施率と回答率は、前年度に引き続き高い水準を維持し、特に学生の回答率が顕著に改善されたことが特筆され

る。これは、manabaなどのシステムを活用し、教員と学生間のコミュニケーション強化や、オンライン授業の調整、リマインドメールの効果的利用など、多方面からのアプローチが功を奏した結果である。授業評価得点に関しては、自己学修を促す工夫が施された講義の評価得点が、全体的に学生の満足度を反映する形で高く評価された。これは、授業の内容や教授法が学生のニーズを満たしていることの証であり、特に実習や実験に関連する授業では、学生の積極的な学修活動が評価された。また、学生の自由記述からは、授業方法や教材選定における教員の創意工夫が高く評価される一方で、授業のペース調整や教材の視認性の向上など、さらなる改善の必要性も示された。教員と学生間のコミュニケーションの改善や相互作用の促進が、教育環境の向上に寄与することが明らかになった。令和4年度の教員による授業評価報告書からは、教員が授業の質を維持し、向上させるための努力を継続していることが示された。また、学生からのフィードバックを基にした授業改善の試みが、教育の質をさらに高めるための重要な手段であることが確認された。FD部会・委員会の活動においても、授業評価の実施やFD教員研修会の企画・実施を通じて、教員の教育スキル向上と学生の学修効果の最大化に貢献した。

以上の取り組みを通じて、令和4年度は、学生及び教員の学修成果と教育成果の向上、さらには大学教育全体の質の向上に大きく寄与した年であった。授業評価の実施率と回答率の改善は、学生と教員が共に教育過程に積極的に関与し、その質を高めようとする姿勢が浸透していることを示している。また、授業評価得点や学生の自由記述から得られたフィードバックは、教員による授業内容の見直しや教授法の改善に直結し、教育の質向上に貢献している。令和5年度に向けては、本年度の成果を踏まえつつ、さらなる教育の質の向上を目指す必要がある。授業評価の回答率向上に向けた取り組みはもちろん、学生の自主学習を支援する教授法の開発や教材の改善、学生と教員間のコミュニケーション強化を通じた学修環境の整備が重要である。特に、学生の自己学修時間の確保とその質の向上、学生の学習体験を豊かにするための教材や授業方法の改善は、今後の大学教育における重要な課題である。また、教員による授業評価報告書の分析やFD研修会のさらなる充実を通じて、教員の教育スキルの向上と学修効果の最大化を図ることも求められる。ICTツールの活用を含めた教授方法の革新や、学生参加型の授業展開など、新たな教育手法の導入にも積極的に取り組むべきである。

最後に、授業評価システムの有効活用とその結果のフィードバック機能の強化により、学生と教員が互いに学び合い、成長できる環境を維持・発展させることが、令和5年度及びその先の大学教育の質の向上に向けた鍵となる。大学教育の目的は、教育・研究を通じて社会に貢献する人材を育成することであり、そのためには、教育の質の継続的な向上が不可欠である。令和4年度の取り組みはその重要な一歩であり、今後もこの方向性を継続し、さらなる教育の質の向上を目指していく必要がある。